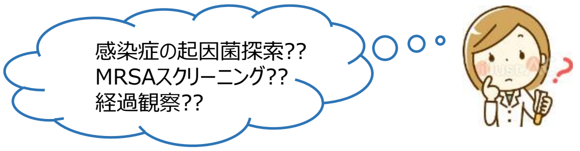
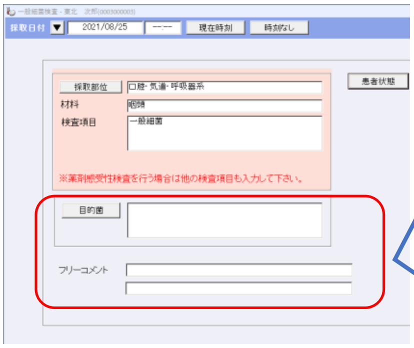
検査部だより Vol.4

必読！！微生物検査の品質向上に向けて

目的菌を入力してください！

微生物検査は**「検査目的」を明確にしたうえで検査を進める**ことが非常に重要です。目的菌により使用する培地、培養条件・期間が異なります。検査技師が検査目的を共有できない場合は**適切な検査が実施できません。**
オーダーの際には目的やコメントを入力してください。





検査のオーダー画面から目的菌やコメントを入力できます！

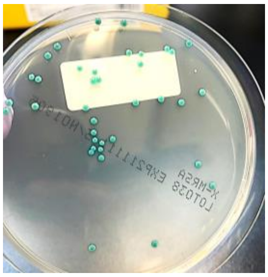
フリーコメント例）
「起炎菌検索」
「MRSA検索」
「カンジダ疑い」 など

また、鼻腔や咽頭、便などには常在菌が多数存在するため、検査目的が不明な場合、適切な検査を進めることが困難です。
目的菌が明記されていれば、スクリーニング培地などを用いることにより、**高感度かつ迅速に結果を返すことが可能です。**

例）MRSAスクリーニング

咽頭は常在菌がたくさん！
MRSAがいてもすぐ拾えない
結果報告が遅くなるかも

「MRSA検索」のコメントがあれば培地を追加して、



MRSAだけが発育してくるので速く報告できる！

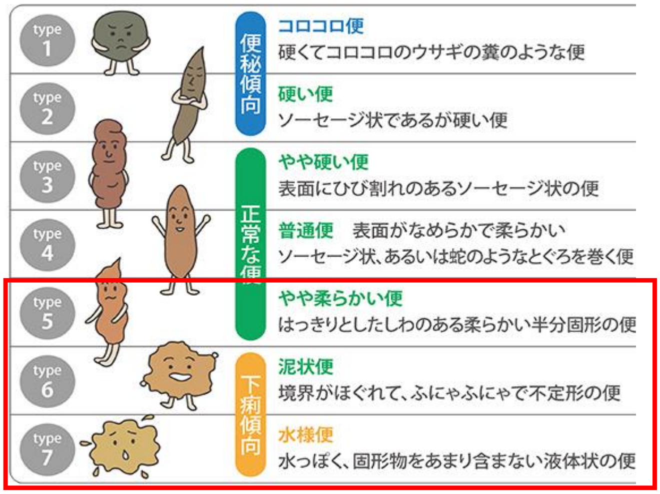
CDトキシンの結果報告時間が短縮されます！

	検査法	所要時間	便性状
従来	培養法	48時間	
新規	NAAT法(遺伝子検査)	2時間	固形便では**検査不能**

CDトキシン検査はイムノクロマト法（抗原検査）です。
イムノクロマト法で***C. difficile*陽性かつトキシン陰性となった場合**は確認試験を実施しています。**NAAT法(遺伝子検査)の導入により確認試験は約2時間**での結果報告が可能となります。詳しくは検業連をご確認ください。

適切な検体採取にご協力ください

C. difficile 感染症（CDI）の診断には下痢症状が伴うことが必須です。*C. difficile*は健常人でも保菌者がみられることがあり、CDIの原因と誤って判断しないためには必ず下痢便で検査を実施する必要があります。
ブリストルスケール 1～4の性状の便は**検査不能**となります。
CDトキシンの検体提出の際には
ブリストルスケール 5～7 の性状の便を提出してください。



文責：星啓太　高橋昇之

ご不明点などありましたら、お気軽に微生物検査室までお問合せください（**内線7388**）

東北大学病院　検査部　検査情報・連携委員会　　2020.10.25　発行